

鹿児島市

素材研究
(国内)



幕末・明治維新に活躍した西郷隆盛の像は、鹿児島市城山町にあります



1865(慶応元)年に建てられた旧集成館機械工場は2015年、世界文化遺産に登録されました



島津斉彬が集成館事業のために造成した関吉の疎水溝。用水は動力源として利用されました



明治維新150周年に向けキャンペーン ストーリーリー性ある歴史と文化を深掘り



1867(慶応3)年に薩摩藩が建設した旧鹿児島紡績所技師館(異人館)は、国の重要文化財です
武士が差す大小の「両棒差し」に由来したものと伝えられる「両棒餅(ちゃんぽもち)」



幕末維新期の衣装を身に付けて来訪者を迎える「薩摩維新おもてなし隊」

鹿児島県では、2018年に明治維新150周年を迎えることから、多くの偉人を輩出した同県の自然・歴史・文化などを観光素材としてキャンペーンを実施する方針です。2018年にはNHKも大河ドラマ「西郷(せご)どん」を制作する予定で、「篤姫」放映時のような鹿児島ブーム再燃への期待も高まっています。

2012年からカウントダウン事業

江戸幕府の体制が崩壊し、近代国家形成の契機となった明治維新で、その原動力となったのが薩摩藩であることは周知の通りです。1869年に薩英戦争により、西洋の軍事力・科学技術の凄まじさを知った薩摩藩は、その後、西洋文明の吸収に努めるとともに、江戸幕府打倒に向けて大きく動き始め、1868年に「明治」という新しい時代が幕を開けることになりました。

その明治維新から150周年という大きな節目を迎える2018年に向けて、すでに鹿児島市では2012年からカウントダウン事業として、薩摩藩の足跡を振り返るイベントなどを実施してきています。

薩長同盟が結ばれた1866年から150年目に当たる今年には「薩長同盟」小松西郷大久保木戸坂本が夢見たものと

は「がテーマに掲げられ、10月23日から11月6日までの15日間にわたり「薩摩維新ふるさと博」が開催されたほか、10月と11月の2回にわたってバスツアーも催行されました。

攻めの情報発信で誘客拡大

鹿児島市では、2015年に「旧集成館」「寺山炭窯跡」「関吉の疎水溝」が「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に登録されており、幕末から明治にかけて日本に西欧の産業革命を移植し、急速な産業化を実現する上で大きな役割を果たした鹿児島のブランドイメージを内外に発信する形となりました。さらに、明治維新150周年に向けて展開されているカウントダウン事業は、こうしたブランドイメージの強化も視野に入れたものとなっています。

2012年から「薩英交流はここから始まった」「強大な西洋と対峙した鹿児島」など、毎年テーマを設定して続けられてきた事業は、来年以降も「国際外交の檜舞台に躍り出た薩摩」「近代国家成立の原動力となった薩摩」というテーマを予定。鹿児島市としては「ストーリー性のある歴史と文化の魅力を深掘りして、市民への啓蒙を図ると同時に、旅行業界にもブランドイメージを活かした旅行商品の企画や造成を働きかけていきたい(「観光プロモーション課」)と考えて、戦略的なプロモーションの展開による攻めの情報発信を通じた誘客の拡大を図る方針です。